

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人黒潮会 あいわの里子ども療育センター				公表日	令和8年 2月 24日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・広々としたスペースだと思う。	・臨機応変にパーティションを使って工夫していると思う。 ・利用時の動きや体格、座位保持椅子などの幅などで狭く感じることがある。 子どもたちの生活や活動内容に合わせて、部屋や環境設定を考えていく必要がある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○	・足りないスタッフの分は専門職や放デイのスタッフからお手伝いをもらっている。 ・最少人数で他部署に協力をもらいながらしていると思う。	・職員の休みが重なった時にスタッフが足りないと感じることがある。 ・午後グループのスタッフが午後活動の準備ができる時間を確保できるようにスタッフ数を増やしてほしい。 (午前活動のフォローに入る為) ・個別対応が必要な子どももいるのでスタッフ数が増えたらと思う。 ・今年度(はばんだときりんグループ)のスタッフが足りなかったように思う。 ・少ないスタッフだと思うがスタッフ間で声かけ、見守りを工夫して対応をしている。 ・片付けや場面が切り替わる時に子ども達の動きによって、足りないと感じることがある。 配置基準は加配以上の配置となっており、充足されているが支度度や急な職員の休みなどにより部分的な負担がかかっていると思われる。今後は①職員数の増員の検討②子どもの行動を考えて、支援の工夫を職員間で話し合いながら、対応をしていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・必要に応じて、スタッフ間で工夫している。	・スタッフのカウンターに入りやすい環境なので子どもが入らないような工夫や見守りが必要になってくると思う。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・各部屋の真ん中にホールがあり、のびのびと活動ができる。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・静養室はあるが活動での個別対応が可能な場所がないのでパーティションを活用している。 ・ゆったりとしたリハビリ室、医務室、静養室がある。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		○	・振り返りを行っているがムラがあるのできちんと振り返りをして、実行に移せるようにしたい。	・共有したことに対する認識について、確認が必要。 ・関係部署は確認できていると思うが広く参画はしていないように思う。 必要な情報は職員全体が共有できるように職員間で伝達を徹底していく。また情報の認識については話し合いを繰り返し行いながら、確認を職員間で行う。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			・十分に業務改善へ、反映できていない点がある為、評価表(結果)を職員で共有し、定期的に検討の場を設けることで改善できるのではと思う。 事業所評価を職員で十分検討できる時間の確保が難しい面があった。今後は結果を職員で共有できる場を作り、少しずつ改善につなげていきたい。	

当	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・職員会議、施設体制委員会を設け、話し合いを行い、改善につなげている。 ・現在、進めている最中だと思う。	・機会はあるが意見が出やすいような環境ではないように感じる。改善されてきたこともあるが今後も改善できるようにしたい。 引き続き改善できることは改善していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・第三者評価委員会を設け、年1回、外部評価を実施している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・マネジメント委員会を設け、研修案内や内部研修を行っている。	他事業所への見学については今後、検討していく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			引き続き丁寧なアセスメントやご家族から聞き取りを行いながら、支援計画を作成していきたい。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			子どもに関係する職員で共通理解が図れるようにグループ会議で情報共有を行う。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			職員会議、グループ会議内で支援計画の内容について共有する時間を設け、計画に沿った支援が行えるように取り組む。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・日々の記録やスタッフ間の振り返りを実施している。	今後も一人一人に合わせたアセスメントを行っていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・チームだけでなく、専門職の意見も参考にしている。 ・話し合える時間があまりなかったが少しの時間を使い、話すようにはしていた。	
適切な支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		○	・子ども達の様子を共有しながら、変えてきた。	・例年通りに行うことが多いかもしれない。 ・お店屋さんごっこに向けての準備が多く、期間も長いので工夫はしてきたが、内容が固定化していたかもしれない。 グループの職員だけで考えることに難しさを感じることもあると思うので職員会議の場でも意見交換しながら、遊びや活動を作っていく。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		○		・チーム全体での打ち合わせが難しいので1対1で確認することが多い。 ・共通認識にずれがないかどうか確認が必要。 ・送迎や出勤時間が違う為、打ち合わせが難しいに思う。 ・打ち合わせの時間が足りないと感じることがある。 職員の勤務体系が同じでなかったり、送迎をしていることでじっくり話ができないこともあるので情報共有できる仕組みを考えていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○		・業務時間の関係でその日にできない時もある為、難しい時がある。 ・打ち合わせができる時とそうでない時があるので細やかに行っていきたい。 ・打ち合わせの時間が足りないと感じることがある。 上記項目と同様に取り組む。

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○				
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・日程調整を行い、参加できるようにしている。		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○		・十分であると思わないが努力していく必要がある。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			並行利用や移行に向けた支援においては現在の取り組みを継続して行き、安心して就園(学)ができるように努める。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・公開療育を実施している。		
	28	(28~30は、センターのみ回答)			○	・事業所の代表が行っている。	児童部会へは代表者が参加できる時は参加してきたが取り組みを情報共有する時間が業務時間内に持てなかったので話す機会を会議等で作っていく。
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			○		・参加が一部の職員だけになっているように思う。 いろんな職員が参加できるように検討していく。
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。			○	・基本的に並行通園されている。 ・平行通園していない利用児と就園している子の運動会を見に行くことはあった。	・感染対策があり、なかなか難しい。 並行通園しているこどもは園で交流する機会があるが未就園のこどもは交流する機会があまりないと感じている。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。			○	・用事や大切な事などは電話連絡で行っている。	・ご家族と直接会う機会が少ない為、子どもの日々の様子を十分に伝えることができない。 ・送迎があるのでご家族と毎回会うことが難しい。 連絡帳や送迎時の引継ぎ、面談会議等の中で共通理解に努めていく。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			・就学を考える会を行っている。	今後、ご家族よりニーズを伺い必要に応じて研修等ができるよう企画を行いたい。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			・契約時に説明を行っている。	契約時に丁寧に説明を行う。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○					
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○					

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・必要に応じて、行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	・父母の会の代わりに茶話会を実施している。兄弟同士の交流の場は遠足時に参加されることがあった。	・兄弟同士で交流する機会がない。 ご家族よりニーズがあれば検討していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			・各グループの担任を窓口として、関わるスタッフに周知、責任者にも確認をとりながら対応をしている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			・月に1回おたよりと活動の様子を個別に「コドモン」にて写真を送っている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			・防犯訓練は行えていない。 ・ご家族に周知できているか分からないので不安がある。 ・災害を想定した、ご家族にも参加していただく訓練は実施していない。 訓練内容の検討と職員全体でも各マニュアルを周知する時間を設けていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			・訓練は同じ時間になることがほとんどなので違う時間とするのもいいのではないかと。午後もしてはどうか。 訓練内容の見直しを図っていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・インシデント報告を朝礼や会議の中で周知し、再発防止に努めている。	ヒヤリハットについてはその都度、情報共有を行っているが時間の経過と共に同じようなヒヤリハットが出ることもあるので定期的に再発防止に向けての話を職員会議等の中でしていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・研修の場を定期的に行う等の工夫が必要に思う。	定期的な研修はしているが今後は色々な職員が研修会等に参加することで虐待防止の意識を高めていきたい。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		・研修の場を定期的に行う等の工夫が必要に思う。 ・現時点では該当者がいない。	身体拘束について、委員会を中心として内部研修等を行い、身体拘束についての理解を深めていく。	